

校長室だより

共学共高

第
68
号

令和6年6月7日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

教育実習生の授業から～その1

5月20日から6月8日までの3週間、6名の教育実習生を受け入れている。いずれも本校の卒業生である。授業実習や養護実習をはじめ、ホームルームや学校行事にも携わっている。全員の授業を観ることはできなかったが、数名の実習生の授業の様子を紹介したい。

まずは、2年1組の体育「マット運動」である。「よろしくお願いします」と生徒たちが声をそろえてあいさつすると、F先生は生徒一人一人の顔を見て点呼をする。生徒の顔を確認するところがいい。私もかつて教諭だった頃にはそのようにしていた。もっとも1、2か月が過ぎて、生徒の顔と名前が一致すると、点呼もしなくなったが。この授業の目標は、「伸膝後転」をすることである。つまり、両足を伸ばしたまま後転するのだ。生徒たちが3、4人ずつ8つのマットに分かれる。まず、F先生が前転の説明をする。ポイントは「頭頂部からマットに着くのではなく、後頭部から着く」とことと伝える。首の安全確保のためである。その後、見本を見せる。生徒たちが同様に行く。概ね上手だ。次に、後転である。「手首は耳の横に着く。お尻は後部へ着く。両ひざはくっつけたまま」がポイントだ。さすがにこれは、苦手な生徒が散見される。続いて、マットの一部を折りたたんで、スロープでの後転、開脚後転と続く。いずれもF先生が見本を見せるが、開脚後転のところでは生徒たちから拍手が起きる。見本が素晴らしいのは強みである。さらに、足幅を狭くしての開脚後転と、最終目標である伸膝後転へ向けてのステップを踏んでいくのである。長座（マットに座って足を伸ばした状態）からの背倒立を行う。なかなか生徒たちは上手だ。一斉にそろっている。次に、背倒立からさらに足を後ろ側に倒してきて、エビのポーズへと続く。伸膝後転に近づいてきた。次は、ゆりかごである。エビのポーズから両手を顔の横のマットに着いて、前方に戻るのである。こうした段階を経て全員が伸膝後転に挑戦する。もう少し時間があると、生徒たちの完成度も上がったかもしれない。安全管理と到達点へ行くまでのスモールステップを超えさせていくところが良く工夫されている。生徒たちの取組もよく、苦手意識を持った生徒でも、段階を踏むことによって最終的に形になっていった。



次に、1年5組の保健「食事と健康」である。直前に会議があったため、途中から参観した。M先生から生徒たちへの投げかけは、「15～17歳の女性のエネルギー摂取基準」「食事バランスガイド」を踏まえ、『食品リスト』から自分に合った1日の理想的な食事を考える」というものだ。生徒たちはペアになり話し合いをしながら考えていく。1年生ながら、すっかり白梅生となり、当たり前に対話をしているのが印象的だ。生徒たちは、食品リストの中から食品を選び、朝食は赤色の○で、昼食は緑色の○で、夕食は青色の○で囲んでいく。一定の時間が経過したのち、数名の生徒を指名して発表させる。「朝食は・・・、昼食は・・・、夕食は・・・」というように発表していく。M先生は、「バランスがとれていましたね」とコメントをする。次に、M先生がつくったメニューを紹介する。1日の総カロリーは2328kcalとのことだ。電子ボードにプレゼンテーションソフトを使って提示されているが、私の1日の食事よりも豪華だ。感心するのは生徒に提示する工夫されたプレゼン資料の見やすさ・わかりやすさである。作るのに相当な時間をかけていると思われる。続いて、「栄養素の摂取基準と健康問題」や「サプリメントの注意点」「食事におけるコミュニケーションの必要性」について説明があり、生徒たちはiPad内のワークシートへ必要事項を記入していく。近年、孤食の問題が話題になることがあるが、生徒たちは、食事はコミュニケーションの場でもあり、誰かと一緒に食事をすることで生まれる良さについても学んだ。ちなみに私は、ほぼ毎晩孤食である。昼食も校長室で孤食である。たまには、生徒のいる教室へ出向いて一緒に昼食を摂ってみようか。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)